心友会だより

第３６８号

昭和44年6月1日創刊
平成16年12月8日発行
発行所及責任者
川崎市多摩区東生田4-13-17
電話番号　044-976-0708
郵便番号　214-0031
宗教法人出雲心友教会
編集兼発行人　佐藤武彦
毎月8日1回発行
1部150円（送料共）
年間購読料1,800円

袋背負い

今年も残り少なくなってまいりました。今年も色々なことがありましたが、皆様方にとってはどんな一年だったでしょうか。

平成１６年の神迎祭での合同写真

八雲立つ出雲の国は、神の国、神話の国としてよく知られています。

神代の神々をおまつりする古い神社が、今日もいたる所にあるからでしょう。

この出雲の国に散在する神社の中心が、大国主大神をおまつりする出雲大社なのです。

大国主大神は、私共の果てしなく遠い先祖と喜びも悲しみも共にされ、国土をひらかれ、国づくり、村づくりに苦心されたのです。

また農耕やその他様々な業をすすめ、私共の生活の基礎を築かれ、殖産の法を教えて下さったのも大神様です。

更に大国主大神は、医薬の道をひらかれ、人々の病苦をお救いになるなど、今もなお慈愛深い御心（みこころ）を私共にお寄せ下さっています。

大国主大神といえば、誰でも思い浮かぶのが、縁結びの神です。

そしてここには、愛の契で結ばれた幸せな二人の姿を思い浮かべられるのではないでしょうか。

しかし、縁結びとは、ただ単に男女の縁を結ぶという事だけではありません。

私共が立派に成長するように、また社会が明るく楽しいものであるようにと、お互いの幸せの為のあらゆる素晴らしい縁結びなのです。

大国主大神が福の神と慕われ、すべての人々から広く深い信仰をお受けになっているのも、この"結び"という溢れる愛情を、私共に限りなくそそいで下さるからです。

今日も大国主大神は、子供の幸せを願う母親のように、私共に幸福の縁を結んで下さっています。

母親といえば、皆様も、幼少の頃口ずさまれた歌がいくつかあると思いますが

大きな袋を肩にかけ
だいこく様が来かかると、

という歌がその中にあった方もいらっしゃると思います。これが、『だいこく様』の歌です。

そして、『この大きな袋には何が入っているの』と質問された方も多いと思います。

この『袋背負い』のだいこく様こそ、出雲大社の大国主大神様なのです。

大神様については、奈良時代に編纂（へんさん）された、『古事記』『日本書紀』『出雲国風土記』などの諸書に神語（かみがたり）られています。

神語（かみがたり）りとは、ひたすらに子孫の幸せの為にとの祖々の深い心により言い継ぎ、語り継がれた日本人の祈りの泉です。

ことに記紀には、大神様の生きとし生けるものの幸せの為の国づくりのご生涯が、詳しく神語られています。

先の『袋背負い』の、いなばの白うさぎの出来事もそうです。その後、大神様は、様々なご試練、難事をお受けになられました。

しかし、その度に死の淵から蘇えられ、御命を更に清新になされ、特に神柄を浄華なさって蘇えりなさいました。

人の一生は苦難に満ちています。『袋背負い』はその一つのお姿でもあります。「人生、七転八起」とは、誰がいつ言い始めたのか、よく言ったものです。

転んでは起きる。その幾度も転んでは起きる力とは何でしょうか。

大神様は苦しみに苛（さいな）まれ、死の淵に沈まれ続けられながら、見事にそこから蘇えり、復活されました。

まさに、『復活の神』『命の結びの神』と申す事が出来ましょう。

背負われた袋の中には、私たちが知らず知らずのうちに生じた苦難、悩み、煩いなどがあり、大神様は、私たちの救いに身代わりとなって背負って下さっているのです。

現代社会は、段々住みにくくなっています。自分だけ良ければ良いという人間が残念ながら増加しています。

しかし、私たちは、大神様に習い、一人でも多くの人々を救える様、日々自分自身を磨いて生活してまいりましょう。